

豊かな教育を子どもたちに

I 研究内容

1 研究の具体的内容と方法

- (1) 甲州市会と山梨市会に別れ、それぞれの課題について研究を進めた。
 - ア 甲州市会…「予算分析」「職員会議提案資料」「PC 内共通ファイルの整備」「予算差引簿の見直し」についての研究。
 - イ 山梨市会…「予算分析」「備品台帳」についての研究。
- (2) 東山梨教育白書の作成に協力するため「教育財政の実態」「教育環境の実態」についての調査。

II 成果と課題

1 成果

(1) 甲州市会

予算要求書の中に、学校の独自要求（特別支援学級予算や学校の独自性予算等）項目を市教委が把握しやすい形で盛り込んだ。また、大きな事業（耐震・PC 環境整備・机イス入替・散水施設・空調設備等々）が、なかなか予算化されず整備が進まない現状をふまえ、校長会に毎年提出している要望書の中に長期展望に立った年次計画の立案の要望を加えた。

職員会議提案資料の修正版の作成、予算要求書添付資料（要求備品一覧表・修繕工事一覧表）の様式の統一を行い、その結果、予算要求に対しての考え方や職員へ提案していく上での留意点等、共通理解を図ることが出来た。

PC 内共通ファイルの様式集の一太郎から Word への変換作業及び共有フォルダ上への掲載、改訂部分の差し替えを行った。

予算差引簿の改訂版の作成及び差引簿ファイルの使い方の講習会を行い、新任の方に知らせることができ、活用する人も増えた。

(2) 山梨市会

予算分析表は本年度から5ヵ年分を入力して、年度ごとの傾向を把握していくようにした。これにより、より分かりやすい分析表ができた。他校とも同じ分析表を交換して検討することにより、自校の問題点や特徴も明確化することができた。耐震改修等に関連した事務職員の関わり方も積極的に関わるようになり、成果を上げている。

備品分類表は小・中学校ともに共通なものに統一することができた。また、備品台帳もエクセルを使ったパソコン処理に移行することが決定されている。

2 課題

(1) 甲州市

今の校内で流用できない予算構成について、課題解決にむけて市教委へ働きかけを行うとともに、フレーム予算を視野にいれた学習を進めていく。

市教委へ提出する予算要求書の形式に、コピー貼り付けが簡単にできるような校内の要求様式の検討を行うとともに、職員からの予算要求のデータでの提出を促進する。

PC内共通ファイルの整備を行ったが、今後、必要に応じて追加・修正等を行う。より作業効率のよい予算差引簿ファイルへの見直しを行う。また、各自の予算差引簿へ求めるものの相違があり、統一した差引簿を利用することの難しさもある。

(2) 山梨市

予算が年々厳しくなっており、すべての要求を満たすことがかなわず、重点要求を中心として成果を上げる傾向にとどまっている。山梨市の予算も合併以降は縮減され、概ね30%以上減額される状況となってきた。この状況で市教委には枠として財政から内示があり、各学校も市教委から内示された枠にあわせる予算要求となった。この点は、好意的に解釈すると総額を守れば各項目の予算額は自由に（今のところそれぞれの項目ごとに金額を指定されているが）決定できることになるので、来年度はこの方向で要求を固めていく必要があるのではないかと思われる。とはいえ、消耗品費・備品費・修繕費等は大きく減額されているので厳しいことになると予想される。

備品台帳の整備も進んでいるものの、まだまだ備品取扱要綱、備品ラベルの書式、理科備品分類表・台帳の作成、各台帳の移行の入力等やらなければならないことが多く存在する。

Ⅲ 成果物

1 甲州市会

- ・ 市教委が把握しやすい形の学校独自要求項目
- ・ 大規模事業に関する年次計画の立案の要望書
- ・ 職員会議提案資料修正版の完成
- ・ PC内共通ファイル様式集改訂版の完成
- ・ 予算差引簿ファイル改訂版の完成

2 山梨市会

- ・ 5ヵ年分のデータを入力し、より分かりやすくなった予算分析表
- ・ 小・中学校ともに共通なものに統一された備品分類表

(部長 名取 美香)